

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101404		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム さくらの家 東ユニット		
所在地	〒020-0835 岩手県盛岡市永井19-37-5		
自己評価作成日	令和7年2月12日	評価結果市町村受理日	令和7年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念 1.「自分らしさを大切にそれぞれの美しい花を咲かせられるさくらの家」 2.「入居者様・地域に皆様に集まっていたりける活気のあるさくらの家」を大切に入居者様が「その人らしく」過ごせるよう、希望を叶える支援に力を入れています。コロナ禍で外出が余儀なくされる中で、入居者様の夢や希望を伺い、ホーム内でも出来る事をスタッフで検討し行っています。地域活動への参加も限られていますが、地区の資源回収や清掃活動へ参加したり、広報誌などで地域への情報発信を継続。広報誌への反響も多く、寄付の申し出や、散歩中の利用者への理解ある対応をいただいています。また、当法人は病院が母体であり、主治医、看護師、薬剤師、歯科医など多種で連携し、入居者様の体調管理を行い速やかに対応しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩手飯岡駅近傍にあって、新しい住宅に囲まれた2ユニットの事業所である。運営推進会議では、細かい事象までも含めた「ヒヤリハット」について、今後の対策を含めての詳細に報告し、介護の現状を委員に理解いただいている。これは、何でも話し合える職場風土に努めた大きな成果である。介護計画の見直しについても、職員全員の総意で行い介護度の数値にとらわれずに全職員の意見が一致した内容のケアプランとしている。これにより、日々書き留めている「生活記録」と併せ、利用者の日常生活の状況をどの職員も同じように把握し、利用者の変化などを見逃すことがない質の高い介護サービスを提供している。医療法人が運営する事業所の強みを活かし、重度化した場合や看取りについても家族に寄り添い、その時その時に相談できる体制が整っている。職員数が限られた中にあるが、引続き職員の総意を基に、良質な介護サービスの提供が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関や休憩室に掲示したり、業務日誌や会議資料にも掲載している。	理念は、事業所を現在の場所に移転開設した当時、職員間で協議し決めたもので、利用者の自分らしさと家族と地域とのつながりを大切にしていこうとする事業所の姿勢を示している。年度目標として利用者が積極的に外部と触れ合うことを掲げ、「夢、希望叶えるプロジェクト」の一環として機会を作って利用者を外へ連れ出している。地域等との繋がりには、コロナ禍により中断している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前はさくらの家祭に地域の方を呼び、小学生と一緒に売り子をしたり、地域の運動会に参加していたが、現在は行えていない。その分、今年も小学生から手作り作品のプレゼントをいただいた。広報誌は年4回作成し回覧版に入れさせていただき、さくらの家での活動などを発信できている。さくらの活動を知り、新聞紙やウエスなどの寄付を頂く事もある。	下永井自治会に加入し、同居する「飯岡・永井地域包括支援センター」とともに町内会の主要行事に参加し、年4回広報紙を回覧板に入れている。地域を挙げての「クリーンアップ作戦」の際には、近隣の方々から、事業所で使う古新聞紙やチラシで作ったごみ入れを寄贈していただいている。また、年2回高校生が中心となって開催している、注文を間違えてしまう喫茶店「SORA」には数名の利用者が参加し、他の介護施設の利用者と交流する貴重な機会となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の資源回収やクリーン作戦などにスタッフが参加している。認知症カフェに入居者様が参加したり、盛岡シティマラソンでは沿道に出て地域の方と一緒に応援できた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は2か月に1度開催。可能な限り、入居者様のご家族様にも参加していただき、事業所の取り組みを地域に発信し、会議で上げられた意見を踏まえサービス向上につながるように努めている。	自治会長、民生児童委員、児童センター館長、家族代表、利用者が委員となっている。会議では、近々に発生した事故や細かい事象まで含めたヒヤリハットについて、今後の対策も併せて詳細に報告している。委員にとっても具体的な事例を通じ、利用者支援の気の抜けない大変さを理解できる場ともなっている。	地域運営推進会議の守備範囲を広げていくためにも、警察又は消防関係者をゲストとして招き、事業所の課題等について助言を得ることについて検討されることを期待します。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者や盛岡市在宅寝たきり高齢者等紙おむつ支給制度の利用申請を行っている入居者様もあり、電話連絡を行い情報共有をしたり、担当者様が実態調査で訪問される際、対応した。	市の介護課等の担当課とは、管理者又はケアマネが対面、電話などで対応しており、その概要は2週間毎に行うカンファレンスの際に職員に報告している。地域包括支援センター主催の医療、福祉、行政関係者が出席する地域ケア会議では介護に関連する事例検討や地域防災についての情報交換などが行われ有意義なものとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止等適正化委員会を介護事業部で3か月に一度開催し、他部署の事例なども情報共有を行い、身体拘束や虐待防止に努めている。また年2回、身体拘束防止の学習会を行い、スタッフ全員が身体拘束について正しい知識を持ちケア出来るようにしている。	法人の介護事業部主催の適正化委員会には職員2名が出席し協議に加わっている。事業所の防止策はカンファレンスで意見を出し合い、呼びかけなどの声のトーンのあり方についても改善周知し理解を深めている。数名の利用者が転倒防止のため、家族の了解を得てセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護事業部で虐待防止委員会を設置しており、部署内では高齢者虐待防止関連法についての学習会を開催している。学習会後はスタッフ同士でディスカッションを行い、自分達のケアについて見直しを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が2名おり、面会や電話などで情報共有を図っている。これらの制度の把握についてはスタッフに説明を行った事があるが、個人で理解のバラツキがあり、改めて学習の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい説明を心がけ、不安や疑問点がないか随時確認しながら進めている。状態変化や退居の際は、サービスが終了するから終わりではなく、今後に対しての不安などがないか、確認しながらいつでも相談していただけるようお声掛けをしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年秋に、法人で利用者満足度アンケートを実施しており、評価を部署内で共有している。その評価や意見に対して、どう改善や工夫が出来るか話し合っている。	家族からの意見や要望は、来訪時に加えケアプラン見直しなどの説明の機会に詳細を伺っている。コロナ禍がひとまず落ち着き、家族からの要望が多くあった居室での面会も再開することができた。家族は利用者の日常生活をどの職員も同じように把握していることや、「夢、希望叶えるプロジェクト」での誕生日のドライブに感謝し心強く感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で収支について周知している。利用者状況、待機者の有無、コスト管理など自分達に直結する内容については特に、どの様に削減できるか意見交換を行っている。	管理者は、何でも話せる職場の雰囲気づくりに意を用い、職員にフランクに声掛けし、利用者の排泄、着替えなどのより良い支援の在り方について、職員と一緒に取り組んでいる。職員は軽費削減についても積極的に提案し小さなものから見直しを進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や外部研修の案内をしている。各自の現状確認については、昨年面談が出来ず、スタッフからも必要性について声があがっていた為、今年度は業務の合間を見ながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要時外部研修にお誘いし、学びの場を設けている。異動や中途入職者に対してはエルダー制度を導入し、育成に努めている。毎年スタッフ全員が通信教育に申し込み、部署内ではeラーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業部の委員会や学習会に参加。自部署だけでなく他職種と交流し、意見交換や情報収集を行っている。事業所に取り入れる事の出来るような情報を共有しサービスの質向上に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入居いただいた際に、さくらで生活する上での不安や希望を伺い、スタッフ間で共有している。内容はサービス計画書に取り入れ日々の生活の中でもケアに反映できるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談やご契約の際にご家族様からの希望や不安などを伺い、サービス計画書に取り入れている。入居者様に変化があった際は、面会時や手紙などで情報を共有出来る様にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入段階で入居者様やご家族に相談し、必要な支援を提供できる様に務めている。今後の介護方針については相談しながら変更し、本人の状態に合わせて支援するという旨をサービス計画書に記載している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人の出来る事を把握し、洗濯干しや畳み物、食器拭きなどの出来る事を行っていただき、役割を持って生活できるように支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙と一緒にご様子がわかるお写真をお送りしている。直接面会が出来ないご家族様には、ご本人宛のプレゼントが届いた際に直接お礼の電話をして喜ばれている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔一緒に働いていた方や、家の近所に住んでいたご友人が面会出来る機会を設けた。さくらの目標である「夢かなえますPJ」では、お寿司が食べたい、買い物がしたい等の要望をお聞きし、実現の手助けが出来ている。	利用者の年齢が増すごとに来訪者は少なくなってきたが、80歳代の近所の方や当時一緒に働いていたかつての同僚が訪れている。職員は、突然の来訪者があっても困らないように、利用者の口をついて出た知人の名前などを「生活記録」に書き留め、誰でも訪ねても来やすく、馴染みの人が途切れないよう支援に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のお人柄や関係性を把握し、トラブルにならない様に席の配置を工夫している。上手く表現出来ない入居者様もいる為、必要時スタッフが間に入り、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、さくらでのサービスが終了したから終わりではなく、今後に対しての不安やお困りごとなどいつでも相談して頂けるように、お声掛けを行い、今までの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中からちょっとした呟きを聞き逃さず、それをケアに取り入れられるように把握に努めている。ご自身での表現が難しい方には、ご家族様から情報収集を行い活かせるようにしている。	入居に先立って本人、家族と面談し、これまでの生活状況を伺い、詳細は入居後の観察で把握している。言葉でうまく意思を伝えることが出来ない利用者については、身振りや表情の変化、ポジティブな反応を見逃さず、好きな食べ物、楽しいと感じられる瞬間を把握している。支援上必要なことを確認できないときは、家族などから伺うなどし、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していた事業所に様子を確認したり、入居後は自宅で愛用していた物をお持ち頂き、安心して頂けるようにお声掛けしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、変化を見逃さない様にスタッフ間でも情報を共有している。カンファレンスの時間を使い、一人一人の状態について情報収集・意見交換を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規入居者は1か月、その他は3か月ごとにカンファレンスを行い、ケアの見直しを行っている。ご家族様のご意向を確認し、しっかり説明の時間を設けてからサインを頂いている。	入居当初はケアマネがケアプランを作成しているが、次回以降は職員全員の総意による見直しを行っている。モニタリングは、他の職員からの情報も加えてその日の早番が「生活記録」に記載し、これを基に月2回のサービス担当者会議で介護度の数値にとらわれない、全職員の意見が一致した内容のケアプランとしている。まともは、5人の計画作成担当者が手分けして行っている。計画期間は短期3か月、長期6か月とし、利用者、家族への説明は、別々に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録だけでなく、職員間で情報を共有したい事は業務日誌に記載したり、朝の申し送りで行ってカンファレンスを行い、より良いケアを提供できるようにしている。また入居者様の変化に応じて計画書やケアの内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切に安心感を持って、何でも話していただけるような雰囲気作りを心掛けている。一人一人に合ったサービスを提供出来るように、可能な限り希望に沿ったサービスを提供できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を活用し、成年後見制度や、盛岡市在宅寝たきり高齢者等紙おむつ支給制度を利用している入居者様もあり、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と関係を築き、契約を行っている入居者様には月1回定期的に往診を受けている。急変や緊急時でも、主治医と協力体制を取り早期の適切な医療が提供出来るよう医療連携に取り組んでいる。契約を行っていない入居者様は、ご家族様が定期的に病院にお連れしている。	入居前からのかかりつけ医には2人の利用者が家族同行で受診している。他の利用者は協力医の訪問診療を毎月受診し、薬局とも契約し投薬指導等を受けている。協力医療機関の24時間対応の訪問看護師が毎週1回、利用者の健康状態を確認している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡体制が出来ており、入居者様の急変時は看護師に相談・報告が出来る体制が整っている。看護師から主治医に相談・報告される事もあり、その指示に基づき入居者様が適切な受診や看護が受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は相談員や看護師と連絡を取り情報共有に努めている。早期退院が出来る様に薬剤師や管理栄養士とも連絡を取り、退院後も安心してさくらで生活出来るよう体制を整えお迎えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについての方針を作成している。契約時や状態変化があった際に説明し、入居者様やご家族様の希望を確認している。看取りの状態と判断された際には、ご家族様と密に連絡を取りながら、主治医、看護師、スタッフが連携し、ご本人が馴染みの場所で馴染みの人と一緒に最後まで安心して過ごせるように支援している。	医療連携体制に関する指針に沿って、入居時に重度化した場合の対応について説明している。開設以来10人以上の方の看取りを行っており、状態の変化に応じて家族の意向を確認しながら、主治医、看護師を交えて丁寧な協議を重ねている。一定の介護度に達した場合でも直ちに特養への住み替えを勧めていない。浴室の構造等もあり、重度化した利用者の入浴介助に労力を割かれている実態がありながらも、職員は、利用者、家族が望む終末期の介護の提供に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し、eラーニングでも学習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事や地震、水害等を想定し日中と夜間想定の避難訓練を行っている。消防設備会社立ち合いの元、訓練を実施し水消火器訓練も実施出来た。コロナ禍のため、地域の方は参加して頂けなかったが、運営推進会議などで内容の報告を行っている。	火災、水害、地震の避難訓練を日中又は16時過ぎの夜間想定訓練として、それぞれ2回ずつ年6回実施し、今年は「声掛けが足りなかった」との反省点があった。事業所はハザードマップでは浸水区域には該当していないが、1月には水害想定で車椅子利用者の2階への避難を体験した。3月には地震想定の訓練を計画している。コロナ禍で中断していた訓練時の地域住民の協力を得るため、町内会長への働きかけを考えている。	災害の発生を原因として冷食の提供が滞った場合の対応について、予め法人と協議しておくことが望まれます。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやカンファレンスでは入居者様には名前が聞こえない様に配慮し、プライドやプライバシーを損なわれない様なお声掛けや対応を行っている。	利用者の尊厳とプライバシーの確保には、法人を挙げて取り組んでおり、呼称は「さん」付けとし、またプライバシー確保のため、法人で定めた「プライバシーポリシー」に従い、カンファレンスでは第三者に利用者が特定されない対応を行っている。このことを職員に徹底するため、年度当初に全職員を対象とした接遇研修を毎年行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めてしまうのではなく、入浴時の着替えを選んでいただいたりする事で、出来るだけ自己決定出来る様な関わりを意識しているが、教務優先になっている現実もある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「帰ります」「そこは何？」と玄関側に行かれない入居者様には、スタッフの都合を優先せず、入居者様の生活リズムを大切に一緒に散歩に行くなど希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗顔や髭剃りのお声掛けをし、感染状況をみて訪問理容を利用しカットや顔そりで整容している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前と食事提供の方法が変わったため、旬の食材を楽しんでいただく機会が減った。しかし、手作りおやつ等を作ったり、行事食を提供し視覚からも楽しんでいただけるように努めている。お声掛けしながら片付けを入居者様と一緒にしている。	省力化のため、三食とも予めメニューを選択した冷食を発注し、湯煎等を経て食卓に供している。利用者はお手伝いとして野菜の具材刻みなどに参加している。お正月、ハロウィンなどの行事食は東西のユニットが協力して一緒のものを調理し提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、増減の把握が出来るようにしている。その方の状況に合わせ副食を食べやすい大きさにしたり、水分にトロミをつけて毎日摂取量を記録に残している。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアのお声掛けをしている。その方の状態に合わせて、柔らかめの歯ブラシにしたり、トウスウエットを使用し、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できる様にその方の排泄のパターンを把握し、必要時お声掛けしている。トイレで安心して排泄出来るようにプライバシーに配慮している。	特別な介助はいらないものの見守りが必要な利用者を含め、排泄の自立者はいない。布パンツ3人で他はリハビリパンツにパットを併用し、オムツ使用者はいない。介助は努めてドアの外で待機する方法を取っている。夜間の介助は東ユニットではそれぞれの利用者に対応し、西ユニットでは21時、2時の時間帯に巡回し、失禁の多い利用者を中心に声掛けを行っている。ポータブルの使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、便秘気味の方はご家族様と相談し好みのコーヒーやヨーグルトをお持ち頂き提供している。体操をしたり散歩をして、可能な限り自然排便が出来る様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い体調を確認後、入浴へお誘いしている。入浴はスタッフゆっくり関わられる様に1対1で行い、順番や同姓介助の希望がある方にも配慮している。	週2回午後入浴を基本としている。全員が介助を必要とし、入浴を避ける傾向がある方もいるが気分次第で左右される程度である。シャンプー等の入浴用品は特に事情がない限り事業所のものを使用している。入浴は利用者と職員がゆったりと話ができる機会となっている。着替えは入浴当日に職員と利用者が一緒に用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれ異なる為、ホールでテレビをみて過ごしたり生活習慣に合わせて支援を行っている。室温はその方の好みに合わせて対応し、安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と契約し、月2回配薬をしていただいている。薬の追加や量の変更などあった際は薬剤師に報告し、情報共有を行っている。ご本人の内服の仕方等気になる点は相談し、アドバイスをいただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割や楽しみを感じていただけるようにスタッフと洗濯干しやたたみ、食器拭き等一緒に行っている。他者と散歩に出たり、体操やレクを行い身体を動かす機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日に入居者様の希望を叶える為に外出支援を行っている。ご本人の希望をお聞きし、昔住んでいた思い出の場所に行ったり、家族に会ったりし懐かしそうな表情で楽しんでいただけた。普段聞けないような話もお聞きしスタッフにとっても貴重な時間となった。	事業所周辺を散歩したり、バルコニーで寛ぐことを日常の外気浴としている。ドライブは天候や車の都合から少人数で出かけている。矢巾町のひまわり畑、市内の先人記念館など目的地はたくさんある。陽射しが強いからと、つばの大きい帽子を届けてくれた家族もいる。白鳥を観て笑顔を見せた利用者がそのことをすぐ忘れたとしても、職員はその時の利用者の笑顔を忘れることはないし管理者は振り返る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自身で現金をお持ちになっている入居者様はおらず、ご要望があった際はご家族様や後見人様に確認しながら支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人からプレゼントが届いた場合は、ご本人から直接お礼の電話が出来る様に時間を設けたり、お話が難しい方は、受取時のお写真をお撮りし、ご家族様にお見せしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節を感じていただけるような装飾で毎月工夫している。トイレの表示をわかりやすくし、トイレ内でもNCがわかるように工夫している。ホールの天井は高くなっており、開放的な空間でお過ごしいただいている。	玄関、事務室を中心として東西にユニットが配置されている。両ユニットとも広いホールを備え、高い天井から十分な陽光があり、暖かい雰囲気になっている。十分な食卓とソファが用意され、ホールに面したキッチンの脇には、両ユニットとも一人用のソファがさりげなく配置されている。ガスストーブとエアコンで室温が調整され、行き届いた清掃は利用者と職員が担っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム さくらの家 東ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室となっており、1人でゆっくり出来る時間を確保している。共有の食席やテレビ前にも椅子やソファがあり、自由に座っていただけるようになっている。キッチン前にはカウンターがあり、生活場面に合わせて使い分けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた食器や寝具、ぬいぐるみやアルバム等入居時に愛用品をお持ち頂き安心して生活できる様に支援を行っている。入居者様の動線に合わせて家具の配置を変えている。	介護ベッド、クローゼット、収納棚、エアコンが用意されている。利用者は、使い慣れた馴染みのものを持ち込み、懐かしい昔の写真を傍らに飾って、居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広めのホールにはなっているが、車椅子や歩行器の方に支障がないように動線を考え家具を配置したり、トイレやお風呂にも手すりが設置されており自立した生活を送れるように支援している。		